

2014年3月期第1四半期 決算説明（電話会議） 主な質疑応答（要旨）

Q1

第1四半期の実績について、期首の会社計画より上振れたとお考えでしょうか。

A1

- 期首の会社計画よりかなり上振れたと考えています。
- 主な要因としては、主要な大口のお客様からの出荷が期首にたてた予想よりも多かったこと、また通販関連市場を中心としたそのほかのお客様からも出荷を多くいただいたことによる収入増が挙げられます。
- 費用についても、全体的にコントロールできたと分析しています。

Q2

第1四半期の実績を踏まえた上で、2014年3月期通期予想を変更していますが、予想の前提について教えてください。

A2

- 第2四半期累計（上期）で、期首予想より営業収益を+80億円、営業利益を+10億円とし、下期は予想を据え置いています。
- 第1四半期の実績を踏まえた上で上期を上方修正し、上期の上振れ分を通期予想に加えた修正としましたが、最もボリュームの多い第3四半期を見て、改めて通期予想については検討したいと思っています。

Q3

宅急便の足下の状況を教えてください。

A3

- すでにリリースしている6月までの実績と、トレンドは大きく変わっていません。引き続き通販関連市場を中心として伸びています。
- 第1四半期の特殊要因であった、主要な大口のお客様からの全量受託が7月以降も続くことになったので、今後も力強い伸びが期待できます。ただし、主要な大口のお客様の、一社のみ配送委託することは避けたいという方針により、全量受託ではなくなる可能性があります。しかしそれを差し引いても9~10%近い成長は可能だと見込んでいます。

Q4

メール便取扱冊数を上方修正されていますが、達成可能でしょうか。

A4

- 競争環境は引き続き厳しいですが、大口のお客様を中心に出荷要請をいただいています。今後緩やかながらも回復基調にあると見込んでおり、計画達成は可能だと思っています。

Q5

第1四半期の実績で、デリバリー事業のパート社員が約3,000人増えていますが、内訳を教えてください。

A5

- 増員のうち、約70%程度がベースターミナルでの作業員増加によるものです。これは日雇い社員や派遣社員をパート社員化するという戦略に基づくもので、計画通りの増員です。

Q6

人件費の中の社員給料について、期首予想より変更していませんが、宅急便の取扱個数が増加する中で品質等に影響はありませんでしょうか。

A6

- たしかにご指摘のとおり、品質を担保する上では外部委託ではなく、社員で対応する必要があると思うので、社員給料については上振れの可能性があります。ただし、業務量にあわせ適正な人員配置を行い、費用コントロールを行っていきたいと思います。

以上